

GX フューチャー・リーグにおける
「DR フレキシビリティ評価指標・活用検討ワーキング・グループ」の組成について
～DR の価値を定量的に評価する指標の検討を開始～

2026 年 9 月 1 日
東京電力エナジーパートナー株式会社

当社は、GX^{*1} 需要創出とサプライチェーンでの排出削減の実現および円滑な GX 資金の供給に向けて意欲的に取り組む企業の枠組みとして 2026 年に創設された、官民連携の組織「GX フューチャー・リーグ」に参加しております。

このたび、GX フューチャー・リーグにおける企業提案型のワーキング・グループ（以下、「WG」）において、当社が代表提案企業を務める「DR フレキシビリティ評価指標・活用検討 WG」（以下、「本 WG」）が 2026 年 8 月 31 日に組成されましたので、お知らせします。

再生可能エネルギーの導入が拡大するなか、電力需給を調整する手段としてデマンド・レスポンス^{*2}（以下、「DR」）の重要性が高まっています。一方で、DR による電力需給の安定化やカーボンニュートラルへの貢献は十分に定量化されておらず、その価値を適切に評価する仕組みの整備が課題となっています。

本 WG では、ヒートポンプ給湯機や蓄電池、EV などの DR に活用可能な機器が有するフレキシビリティ（調整力）について、その社会的価値を定量的に評価するための考え方や指標を検討します。また、評価指標の活用方法についても検討を進めることで、DR に関する社会的理解の醸成や、DR 機器の普及促進、DR に取り組む事業者が適切に評価される環境整備へとつなげてまいります。

当社は、本 WG での取り組みを通じて、DR の価値が広く認識される環境整備を推進し、DR の普及拡大や再生可能エネルギーの有効活用により、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

【代表提案企業】

東京電力エナジーパートナー株式会社

【共同提案企業】※五十音順

関西電力株式会社

株式会社コロナ

四国電力株式会社

ダイキン工業株式会社

中部電力ミライズ株式会社

北海道電力株式会社

北陸電力株式会社
株式会社三菱総合研究所

【オブザーバー】※五十音順

経済産業省

一般社団法人 電力中央研究所

以 上

※1 グリーン・トランスフォーメーション

化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心へ転換し、経済社会システム全体を変革することで、エネルギーの安定供給、経済成長、温室効果ガス排出削減の同時実現を目指す取り組み。

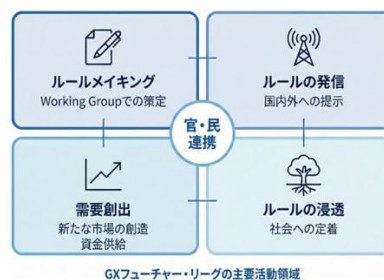
※2 デマンド・レスポンス(Demand Response)は、お客さま（需要家側）が電力使用量をコントロールすることで、電力需給バランスを調整する仕組み。下げ DR（電力需要の抑制・節電）と上げ DR（電力需要の創出・電気を使用する時間帯のシフト）がある。

<参考>

OGX フューチャー・リーグとは

GX フューチャー・リーグ

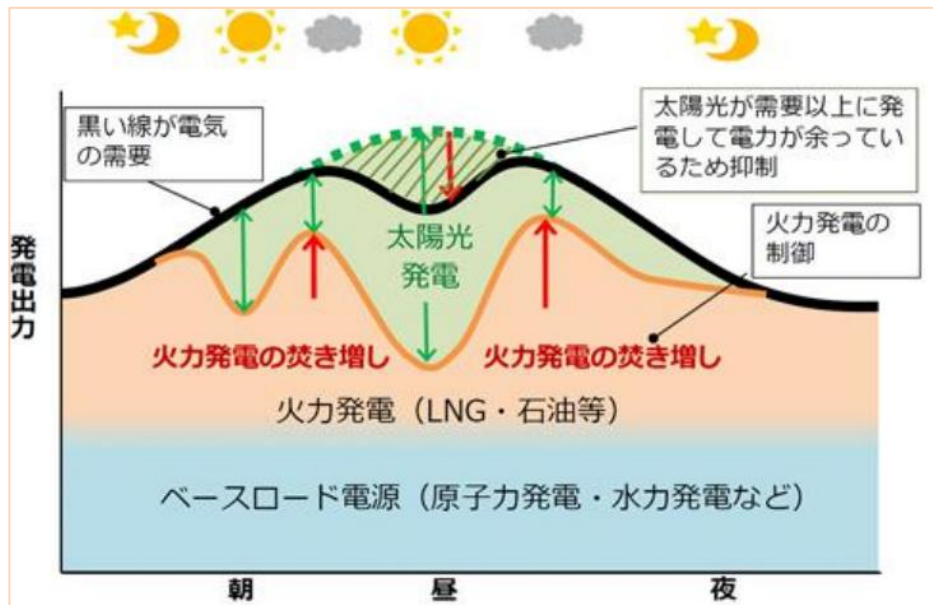
「GX フューチャー・リーグ」では、業種・業態・排出量の多寡にかかわらず、GX等に関する「需要創出」「ルールメイキング」「ルールの発信」「ルールの浸透」を行うことを目的に官・民ともに様々なテーマでのWGを実施する場です。



出典：GX フューチャー・コンソーシアムウェブサイト

<https://gx-future-consortium.go.jp/gxfl-general/>

○DR の概要



出典：経済産業省ウェブサイト

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/pdf/074_01_00.pdf

○本 WG の概要

